

## 「『昭和の日』に思う」

2014年4月29日

今日の4月29日は「昭和の日」という祝日である。この日は、昭和天皇・裕仁氏の誕生日である。祝祭日は年に17日あるが、天皇に関わる日が多い。2月11日の「建国記念の日」は、かつては「紀元節」と言われていた。神武天皇が即位し、日本が建国された日とされ、祝っていた。これはもちろん、史実ではなく神話であるが、「建国をしのび、国を愛する心を養う」と規定し、「紀元節」を「建国記念の日」という名に変えて制定された。

5月4日の「みどりの日」は「昭和天皇は植物に造詣が深く、自然をこよなく愛したことから『緑』にちなんだ名がふさわしい」という主旨の多数意見によって制定された。

7月21日の「海の日」は、明治天皇が東北・北海道を巡行し、横浜に帰着した7月21日にちなんで制定された。

9月15日の「敬老の日」の由来には二つの説がある、聖徳太子が「悲田院」という、今でいえば老人ホームを建てた日が9月15日であった。もう一つは、元正天皇が養老の滝に巡行し、年号を「養老」と改元した。養老の滝は、父に酒を飲ませた孝行息子の故事がある。老人を大切に「養老」を「敬老の日」にしたという説である。

11月3日の「文化の日」は、明治天皇の誕生日で、かつては「天長節」と言われ、昭和2年から「明治節」と改名された。

11月23日の「勤労感謝の日」は、農業国であった日本は収穫を感謝し、「新嘗祭（にいなめさい）」という名で、京極天皇の時代から始まった。戦後、天皇行事から切り離され「勤労感謝の日」になった。

このように、祝祭日は天皇に関係ないと思える日も、実は深く関わっている。日本人は天皇制という枠組みの中で生活していることになる。極めつけは「元号制」である。日本の家屋や間取りは尺貫法で測っていた。国際基準に合わせて、メートル法に変えた。ところが年号は、天皇の即位に応じて「元号制」を取った。アナクロニズムも甚だしいが、年数を数える時、不便この上ない。

私は、日本とドイツの戦争責任の負い方の違いが、国際的な信頼度の差を生んでいると思っている。ドイツはヒトラーの蛮行の罪責を真摯に担ってきた。現在も担い続けている。それが、ドイツの信頼を深めた。日本は、戦争責任を負うどころか、国体の護持・天皇制の温存を図った。このことが、その後、日本人の責任感覚を麻痺させたのではないか。大きいもの、強いものは責任を逃れ、トカゲのシッポ切りの様相が定着した感がある。

上野千鶴子氏は『上野千鶴子の選憲論』で、「象徴天皇制」は米国の押し付けで、ここでは民主的な共和制はできないという。天皇に実権はなく、権威だけである。それは、二階に上げられ、梯子を取られたようものではないか。あまりに気の毒である。天皇に、国民と同じような「人権」を認める。そうなった時、日本は真に民主化していく。

天皇制に関する論議はタブー視され、私の意見など、犬の遠吠えにもならない。しかし、「昭和の日」に思うことは多い